

TNB58だより



平成 26 年 10 月号

運動会や体育大会も無事終わったと思うと直ぐに音楽会や文化祭の準備が始まります。その間には、オープンスクールやマラソン大会、中学校では部活動の新人大会もあります。まさに「行事の2学期」と言ったところでしょうか。しかし、学校生活の中心は授業であり、学力向上に向けての取組を忘れるわけにはいきません。息を抜く間もないような毎日かもしれませんが、丹波の美味しい秋の味覚を楽しみながら、リフレッシュすることを忘れず、子どもたちと心身ともに「・・・肥ゆる秋」にしてください。

今月は、先月同様、国語の授業展開について、スーパーティーチャーからの助言を掲載しました。国語力は、すべての教科において理解を深めるための基礎となるものであります。秋は読書指導に最適の季節でもあり、授業研究の参考にぜひ役立ててください。

国語の学力をつけるために

平成 26 年度の全国学力学習状況調査の結果が発表されました。各市教育委員会をはじめ、各小中学校でも分析が進んでいると思います。「たかが学力調査、されど学力調査」。

以下に、Q&A形式で、国語科の学力をつけるための課題について、具体的な普段の授業改善の工夫から考えていきたいと思います。これらは担任一人が取り組むだけでなく学校全体として取り組むことで、学びの連続性が積み上がり、子どもの国語科の伸びが確実に期待できます。校内研修の方向性にも参考にさせていただくとうれしく思います。(参照:「平成 26 年度全国学力学習状況調査」・平成 25 年度 8 月文部科学省発行「平成 25 年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」)

Q 1 日々の学習指導で学力向上につながる手立てはありますか？

- ・ **学習の見通し、振り返り** 学習活動を積極的に行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられます。学校全体で取り組むと、全児童の学力向上につながります。
- ・ **学級やグループで話し合う活動や自分で課題を立てて、調べたことを発表する**などの学習活動を積極的に行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられます。
- ・ **ペア学習やグループ学習が効果的**なのは、人数の多い学級です。全体ではなかなか言いにくい子も小集団では言いやすいでしょう。ただ何について話し合うのか、本時の目標に関わった課題を、教師は話し合いの前に明確に指示することが大事です。



Q 2 学力に結びつく「書く力」は、どんなふうに指導したらよいのですか？

- ・ **目的に応じて書いたり、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書いたり**することが大事です。答えだけでなく、なぜそう考えるのか、理由付けを書かせることが大事です。
- ・ **短く書くことが分かりやすい文章になります。**「一つの内容を一つの文に簡潔に書く。」ことや、「二つ以上の内容が含まれた文を、主語に応じて複数の文に分ける。」学習が、日々の授業や家庭学習への継続的な指導に大切です。教科書教材の「主語と述語の関係」「指示語や接続語の役割」「文や文章の構成」の指導も確実にしましょう！
- ・ 実際には、①**短作文**で、短文を重ねて書く指導。必ず、接続詞を用いる。②**接続語**の指導で、実態に応じた接続語の指導をする。③**日記指導の時間を確保・継続**する。1文が長い場合は短文に分ける練習を日々意識させて下さい。最近、日記指導がつい後回しになっているという反省の声をよく聞きます。継続は力なり！まず書くことに慣れさせましょう。

Q 3 学力に結びつく「話す・聞く」の指導は、どのようにしたら良いですか？

- ・ 単に話したり聞いたりするのではなく、その内容を的確に把握しているのか、聞き手の姿勢が大事です。話し手の何が良く伝わり、何が分かりにくいのか、必要に応じてメモを取り、プレゼンの後に相互評価をする、話す子、聞く子両者ともに力をつけることが大事です。つまり小学校では、相手の立場や状況を踏まえ、適切かつ効果的に助言をする、評価し合う学習指導を心がけましょう。
- ・ 中学校では、話す「実の場」(社会とつながる体験)として、司会の役割を理解し、状況に応じてその役割を果たす指導の工夫をします。グループでの話し合い活動をさせることが多いですが、司会のマニュアルに慣れるように学習をさせます。自分の意見を相手に伝えるような話し合いをさせるために司会は重要な働きをします。

Q 4 言語活動を取り入れた単元活用型の学習って実際にどのような実践がありますか？

- ・ 言語活動を意識し、学習の見通しを持たせて学習を進める一連の単元活用型学習を行うことにより「書く力」「単元を構成する力」がつけます。
- ・ 例①:「はたらく車ずかんをつくろう」→「取材→構成→記述→推敲」の多様な学力がつけます。
- ・ 例②:「登場人物ポスターをつくろう」→複数の文章を比べたり、関連付けたりして文章を書く力がつけます。
- ・ 例③:教材から読み取ったり、自分で考えたりしたことを文章にまとめて書く。→条件がないと書いたものが何でもOKになり、評価が難しいです。字数制限、キーワード、書き出しの言葉、話形等を条件として挙げることで評価規準にもなります。
- ・ 例④:「〇〇のひみつブックをつくろう」→「比較、類別、置き換え、関連」の力がつけます。

Q 5 読書の時間の長い子ほど学力が高いという結果を受け、実践したいのですが？

- ・ 1カ月間、1週間等の期間を設定し、教師も含め、全員が読書したり、教師が読み聞かせをしたりして、読書の時間を保障することも本に親しむ機会となります。また、学校図書館だけでなく地域の図書館から学校単位で本を借りて、本の内容を豊かにすることも、子どもの本への興味関心が増します。

Q 6 平成 26 年度学力テスト小中学校国語問題の傾向を教えてください。

- ・ 問題の分野が、新聞の投書、古典の落語、などに広がりました。また物語の題材で文章だけでなく、図や会話を通しての読み取りが問いになりました。
- ・ 中 B 問題で、初めて落語を題材に取り上げ、古典の物語を読み解くことができるかどうかを問う問題が出ました。庶民の食べるさんまのおいしさに魅了された、世間知らずの殿様の姿を滑稽に描く「目黒のさんま」を題材にしています。
- ・ 落語問題を作成した国立教育政策研究所の担当者出題の意図は？→「落語は現代でも親しまれる伝統芸能で、日本の言語文化への関心を高めることもできる。」
- ・ その他、小 A 問題で、物語の創作で転校生の気持ちを情景描写に置き換えることの効果の理解 や、小 B 問題で、読み物を読んで分かったことや疑問点をまとめる際に、「例えば」という言葉を使い、具体的な事例を示す条件に合った文章を書く、等の出題もありました。日々の読み取りや書く力を付ける授業にも活用できます。
- ・ さらに、詩人のまどみちおさんがタンポポを題材に描いた二つの詩を読み比べ、表現や内容の共通点や違う点をとらえ、自分の考えを書く。二つの詩を比べて読むタイプの出題は初めてです。詩の授業にも活用下さい。



俳句、短歌、百人一首、古文、漢文、落語、など古典文化に日ごろから親しむ機会を設けることが国語の多様な学力向上、さらには世界に羽ばたく人材育成にもつながるものと思います。

(丹波教育事務所 酒井礼子スーパーティーチャー)